

C-74 簡易化による被服構成の研究(第9報)―女物袴長着の標付―
島根県立島根女短大 ○岡 綾子 野津哲子

目的 被服構成の中でも袴長着の標付は重要な役割を示すものである。
従来の和裁に因する書物を見ると、表・後身頃標付の際、大部分が肩山で二つ折りとして丈標をしているのが現状である。この実験結果は外廻り布と内廻り布の寸法差がある。そこで我々は二つ折りをしないで標付をする合理的な方法を見出したので報告する。

方法 島根県立女短大で参考にしている書物について調査し、その結果と我々の考えたものを比較検討した。

結果 二つ折りしないで標付するの寸法にくるいがなく、合理的、能率的、簡易である。したがって被服実習袴長着の指導には適当な方法であると思われる。